

Cento Cuori HARIMA・高砂市障がい者自立支援協議会

ボールだけで誰でも楽しめるサッカーの美点を活かし、障がい・年齢・経験を問わずに人々が同じピッチで楽しむ。勝敗を超えたつながりや感謝を地域に生み、選手・家族・高校生・地域ボランティアらが互いの尊重を育む多様性（ダイバーシティ）・社会包摂（インクルージョン）活動。

取り組み内容

実施場所：2018年9月29日～現在（年間4～5回開催）

取組場所：兵庫県高砂市ユニー・アイ帆つとセンター、高砂市陸上競技場、伊保スポーツ広場 ほか
取組内容：

当ユニナビサッカー教室は、チェントクオーリハリマと高砂市障がい者自立支援協議会が連携し、障がい者、その家族や支援者、トップチーム選手、スタッフ、地元高校生、クラブアカデミーの選手、地域ボランティアなど多様な人々が同じピッチでサッカーを楽しむ場です。2018年9月29日に第1回を開催して以来、地域に根差したインクルーシブな教室として継続してきました。活動はユニー・アイ帆つとセンターの会議室から始まり、高砂市陸上競技場や伊保スポーツ広場などへ活動の場を広げ年間4～5回開催しています。勝敗や技術の優劣ではなく「一緒に楽しむこと」を何より大切にしています。普段は競技に取り組む選手たちも、この場では一人のサッカーファミリー。障がいの有無や年齢、経験に関係なく自然に交流しながら、サッカーの本質的な楽しさや人とつながる喜びを共有します。現在では施設の自主事業として継続開催されるほど地域スポーツ施設との連携も深まりました。さらに地元高校生やクラブアカデミーの選手も継続的に参加し、「誰もが一緒にサッカーを楽しむ」という次世代に当然とされるべき価値観を地域につくりつつあります。

リスペクトであると思う理由：

当教室は障がい者のサッカー教室ではありません。参加するすべての人が互いを理解し、認め合い、サッカーやスポーツの本質を学ぶ場です。障がい者、そのご家族や支援者、競技志向の選手、地域の高校生、アカデミー生、スタッフなど異なる立場の人が同じピッチに立つことで「できる・できない」ではなく、一人ひとりの個性を尊重し合う文化が自然と育まれます。競技志向の選手たちにとっても、この活動はサッカーの原点に立ち返る重要な機会でしょう。たんなる競い合いではなく、一緒にプレーして笑顔を分かち合うことで、スポーツのなかでもサッカーの強烈な特徴である「人と人をつなぐ力」を改めて実感しています。高砂市陸上競技場をはじめとした天然芝の恵まれた環境で活動できることは決して当たり前ではありません。この教室を通じ、多くの人の支えによってサッカーができる感謝が参加者に生まれます。「リスペクト」は言葉ではなく、日々のサッカー体験の中で自然と育まれる身体性そのもの。この活動を通じ、立場を超えて互いを認め合う文化を地域に広げ、誰もがサッカーファミリーとしてつながる社会を目指します。

